

「自己点検・評価書」・「基礎資料」正誤表

大学名：姫路獨協大学薬学部

■自己点検・評価書

	頁	行	誤	正
1	12	26	<u>2023</u> 年に制定し、	<u>1993</u> 年に制定し、
2	15	11	<u>教育活動自己評価(授業改善策)</u> を策定している。	<u>教育活動自己評価</u> を策定している。
3	15	14	各教員が提出した <u>教育活動自己評価報告書</u> は、	各教員が提出した <u>教育活動自己評価</u> は、
4	20	8	教員レベルでの自己点検・評価(「 <u>教育活動自己評価報告書</u> 」、	教員レベルでの自己点検・評価(「 <u>教育活動自己評価</u> 」、
5	24	2	特に <u>シラバス</u> には	特に <u>履修の手引</u> には
6	32	36	4年次 <u>原級留置学生</u> を対象に、	4年次 <u>留年生</u> を対象に、
7	37	4	薬学部 <u>教務委員</u>	薬学部 <u>F D委員会</u>
8	50	15	<u>教員による配慮申請</u> を	<u>学生本人が配慮申請</u> を
9	56	32	学内 <u>ホームページ</u> において公表する	学内 <u>イントラネット</u> において公表する
10	62	24	資料 <u>8-8</u>	資料 <u>8-7</u>
11	71	16	その分野の <u>内・外部の専門家である兼任・兼任講師</u> に委任している	その分野の <u>専門家である兼任講師あるいは非常勤講師</u> に委任している
12	73	24	資料 <u>38</u>	資料 <u>41</u>
13	76	12	取りまとめた <u>教育活動自己評価(授業改善策)</u> を作成し、	取りまとめた <u>教育活動自己評価</u> を作成し、
14	76	14	「 <u>教育活動自己評価(授業改善策)</u> 」としてまとめ、	「 <u>教育活動自己評価</u> 」としてまとめ、
15	83	6	<u>学内イントラネット</u> を利用して求人票が検索できる	<u>HDU キャリアナビ</u> を利用して求人票が検索できる
16	84	23	医師 (<u>薬学部教授:内科医</u>)、	医師 (<u>看護学部教授:内科医</u>)、
17	84	27	精神科、	精神科・ <u>神経科</u> 、
18	84	27	整形外科、 <u>婦人科</u> の医師も	整形外科の医師も

■基礎資料

	資料番号	頁	箇所	誤	正
1	2	4	A 基本事項 (2) 薬剤師に求められる倫理観 【④研究倫理】 1) 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。		1年に 「薬学概論」 を追加 別紙1
2	2	4	A 基本事項 (2) 薬剤師に求められる倫理観 【④研究倫理】 2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。		1年に 「薬学概論」 を追加 別紙1
3	2	26	A 基本事項 (2) 薬剤師に求められる倫理観 【④研究倫理】 1) 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。		1年に 「薬学概論」 を追加 別紙1
4	2	26	A 基本事項 (2) 薬剤師に求められる倫理観 【④研究倫理】 2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。		1年に 「薬学概論」 を追加 別紙1

5	3-3	50	卒業判定時（年度末） の在籍学生数：A		赤文字部分： 記載データの訂正 別紙2
6	3-3	50	学士課程修了（卒業） 者数：B		赤文字部分： 記載データの訂正 別紙2
7	3-3	50	卒業率（%）：B/A		赤文字部分： 記載データの訂正 別紙2

(基礎資料2)平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目

2013 - 2017 年度 (平成25 - 平成29年度) 入学生

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選)をつける)実施学年の欄に記入してください。
2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)			臨床心理学	対人コミュニケーション	病院・薬局実務実習	
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)			臨床心理学		病院・薬局実務実習	
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)			臨床心理学		病院・薬局実務実習	
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)			臨床心理学		病院・薬局実務実習	
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)			臨床心理学			薬物副作用論
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学概論		臨床心理学			薬物副作用論、薬剤疫学
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)						薬物副作用論
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	医療倫理					
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	医療倫理、薬学概論				薬学総合演習I	
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	医療倫理、コミュニケーション・ファーマシー				薬学総合演習I	
4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。		生物統計学			薬学総合演習I	
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	医療倫理、薬学概論				薬学総合演習I	
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	医療倫理、薬学概論、コミュニケーション・ファーマシー				薬学総合演習I	
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	医療倫理、薬学概論				薬学総合演習I	
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	医療倫理、コミュニケーション・ファーマシー					
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)				模擬薬局実習	病院・薬局実務実習	
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。					病院・薬局実務実習	安全管理
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。					病院・薬局実務実習	安全管理
4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。					病院・薬局実務実習	安全管理
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これら回避するための手段を討議する。(知識・態度)						薬物副作用論
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	薬学概論				薬学総合演習I	薬物副作用論
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これら回避するための手段を討議する。(知識・態度)						薬物副作用論
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	医療倫理、薬学概論				薬学総合演習I	
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	医療倫理、薬学概論				薬学総合演習I	
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	医療倫理、薬学概論				薬学総合演習I	
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	医療倫理、薬学概論					
(2) 薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	医療倫理			模擬薬局実習	病院・薬局実務実習、卒業研究I	
2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	医療倫理				薬学総合演習I	
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	医療倫理			模擬薬局実習	病院・薬局実務実習、卒業研究I	
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	医療倫理				薬学総合演習I	
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	医療倫理、薬学概論			臨床試験管理学	薬学総合演習I	
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。	医療倫理				薬学総合演習I	
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	医療倫理				薬学総合演習I	
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	医療倫理			模擬薬局実習	病院・薬局実務実習	
2) 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。	医療倫理、薬学概論			臨床試験管理学	薬学総合演習I	
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	医療倫理			臨床試験管理学	薬学総合演習I	
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)	医療倫理			模擬薬局実習、医薬品情報学	病院・薬局実務実習	
【④研究倫理】						
1) 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	薬学概論			臨床試験管理学		
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	薬学概論			臨床試験管理学		
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規を遵守して研究に取り組む。(態度)		物理・化学系統合演習			卒業研究I	卒業研究II
(3) 信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	医療倫理				医療現場でのコミュニケーション、善利	
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	医療倫理				医療現場でのコミュニケーション、善利	
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。	医療倫理				医療現場でのコミュニケーション、対人	
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。	医療倫理		臨床心理学		医療現場でのコミュニケーション、対人	
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)	医療倫理		臨床心理学		医療現場でのコミュニケーション、対人	
6) 自分の心理状態を認識し、他者と接することができる。(態度)	医療倫理		臨床心理学		医療現場でのコミュニケーション、対人	
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)	医療倫理		臨床心理学		医療現場でのコミュニケーション、対人	
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)	医療倫理		臨床心理学		医療現場でのコミュニケーション、対人	
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)	医療倫理		臨床心理学		医療現場でのコミュニケーション、対人	
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	医療倫理				医療現場でのコミュニケーション、善利	薬学総合演習I
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)	医療倫理				医療現場でのコミュニケーション、対人	
(4) 多職種連携協働とチーム医療						

(基礎資料2)平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目

2018年度(平成30年度)以降入学生

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選)をつける)実施学年の欄に記入してください。
2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)			臨床心理学	対人コミュニケーション	病院・薬局実務実習	
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)			臨床心理学		病院・薬局実務実習	
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)			臨床心理学		病院・薬局実務実習	
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)			臨床心理学		病院・薬局実務実習	
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学概論、医療倫理		臨床心理学			
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学概論		臨床心理学			
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	薬学概論、医療倫理					
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	医療倫理					
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	医療倫理、薬学概論					薬学総合演習A・B
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	医療倫理、コミュニケーション、ファーマシー					薬学総合演習A・B
4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。		生物統計学				薬学総合演習A・B
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	医療倫理、薬学概論					薬学総合演習A・B
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	医療倫理、薬学概論、コミュニケーション、セルフメディケーション論			セルフメディケーション論		薬学総合演習A・B
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	医療倫理、薬学概論、コミュニケーション					薬学総合演習A・B
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	医療倫理、コミュニケーション、ファーマシー					
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)				模擬薬局実習	病院・薬局実務実習	
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。						薬学総合演習A・B
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。					病院・薬局実務実習、安全管理	薬学総合演習A・B
4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を挙示し、その原因と防止策を説明できる。					病院・薬局実務実習、安全管理	薬学総合演習A・B
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)					薬物副作用論	薬学総合演習A・B
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	薬学概論				薬物副作用論	薬学総合演習A・B、薬剤疫学
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)					薬物副作用論	
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	医療倫理、薬学概論					薬学総合演習A・B
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	医療倫理、薬学概論					薬学総合演習A・B
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	医療倫理、薬学概論					薬学総合演習A・B
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	医療倫理、薬学概論					
(2) 薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	医療倫理				病院・薬局実務実習、卒業研究I	卒業研究II
2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	医療倫理					
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	医療倫理				病院・薬局実務実習、卒業研究I	卒業研究II
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	医療倫理					
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	医療倫理、薬学概論			臨床試験管理学		
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。	医療倫理					
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	医療倫理					
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	医療倫理				病院・薬局実務実習	
2) 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。	医療倫理、薬学概論			臨床試験管理学		薬学総合演習A・B
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	医療倫理			臨床試験管理学		薬学総合演習A・B
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)	医療倫理			医薬品情報学	病院・薬局実務実習	
【④研究倫理】						
1) 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	薬学概論			臨床試験管理学		
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	薬学概論			臨床試験管理学		
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規規範を遵守して研究に取り組む。(態度)		物理・化学系統各演習			卒業研究I	卒業研究II
(3) 信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	医療倫理				医療現場でのコミュニケーション、審判	
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	医療倫理				医療現場でのコミュニケーション、対人	
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。	医療倫理				医療現場でのコミュニケーション、対人	
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。	医療倫理		臨床心理学		医療現場でのコミュニケーション、対人	
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)	医療倫理		臨床心理学		医療現場でのコミュニケーション、対人	
6) 自分の心理状態を認識し、他者と接することができる。(態度)	医療倫理		臨床心理学		医療現場でのコミュニケーション、対人	
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)	医療倫理		臨床心理学		医療現場でのコミュニケーション、対人	
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)	医療倫理		臨床心理学		生物・衛生・生薬統合演習	
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)	医療倫理		臨床心理学		生物・衛生・生薬統合演習	
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病状やケアの影響について説明できる。	医療倫理				医療現場でのコミュニケーション、対人	薬学総合演習A・B
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)	医療倫理				医療現場でのコミュニケーション、対人	
(4) 多職種連携協働とチーム医療						

(基礎資料3-3) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾	A	78	83	72	54	44
学士課程修了(卒業)者数 ¹⁾	B	65	68	39	34	19
卒業率(%) ²⁾	B/A	83.3%	81.9%	54.2%	63.0%	43.2%
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年	55	50	28	27	14
	7年	8	10	6	3	0
	8年	0	1	2	1	0
	9年以上	0	3	1	1	0
入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾	D	129	101	76	78	47
ストレート卒業率(%) ⁵⁾	C/D	42.6%	49.5%	36.8%	34.6%	29.8%

- 1) 年度途中で卒業した学生(秋卒者など)の数は除いてください。
- 2) B/Aの値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。
- 3) Bの人数(編入学者があれば除く)の卒業までに要した在学期間別の内訳を記入してください。
- 4) 各年度の正規卒業学生が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記入してください。
- 5) C/Dの値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。